

## ロータリーに至る道

八幡浜 菊池 俊清

今年度のテーマ「奉仕 私はロータリーを信奉する」はR I会長の講演の中から忖度してきめられたものと聞き、私はマンチェスターR I会長の謙虚な人柄に再びふれる思いがした。それは一九七二年十月、高松で開かれた当三六七地区年次大会に、同氏がR I会長代理として臨席された際の講演の中で「私はロータリーが何であるか正確には知りませんが、しかしロータリーに至る道についてのお

話ならできると思います」と述べられた、その人柄の滲みでた言葉に私は深い感銘をうけたことを思い出したからである。

ロータリーは分らない、むつかしいということはよく聞くし、私自身にしても「ロータリーとは何か」と問われ、明快に答える自信はない。しかし私は爾来この言葉を心に深く刻みこみ、ロータリーをうまく説明できないことは何ら恥ずべきことではなく、恥ずべきは言葉のみ多くして行動の伴わないことであると自ら戒めておる。

昨年度私はクラブで雑誌委員長を仰せつかり「友」を精細に読む機会を与えられたが、華やかな社会奉仕のクラブ活動は毎号写真入りで紹介されるけれども、個人の社会奉仕活動はもとより、ロータリーの真髄とも言うべき職業奉仕活動の記事の少いことを常に淋しく思っていた。ロータリーの理念に対する議論は活発であるが、個人の活動の記事は「友愛の広場」「談話室」に見られるにすぎず、しかもそこでも僅かしかない。

人間の評価は原則的に何を言ったかではなく、何をしたかによってきまると言われるが、私もまた友情を通じて善意を築きあげながら実践につとめロータリーに至る道を歩みたいと願うものである。